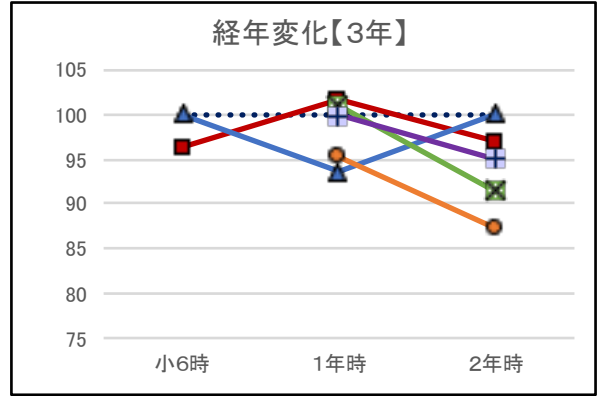
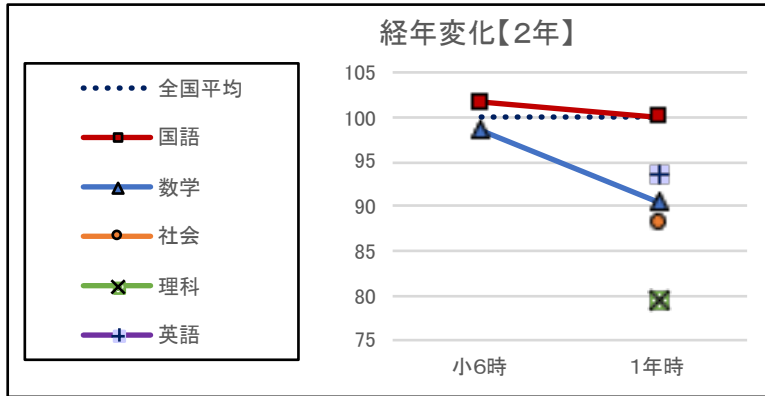


I 前年度の各種調査から見られる学校の状況

① 標準学力検査の経年変化（全国平均を100とする標準スコア）

※釧路市では、1～2年生を対象に国語と数学で標準学力検査を実施していますが、本校では、独自に社会・理科・英語も実施しています。



② 学校の状況

<R4\_12月標準学力検査「質問紙」回答結果より>

(ア)「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定的な回答の割合が低く、全国と比較するとR4\_2学年で7.7ポイント、R4\_1学年で22ポイント下回っている。

(イ)「話をしっかり聞いている」「きちんとノートをとっている」では肯定的な回答は9割程度と高い水準にある。一方で、「質問している」「復習している」の肯定的な回答は低い。授業の話し合いでも、「聞くこと」より「話すこと」のほうが肯定的な回答の割合が大きく下回っている。

(ウ)「自分にはよいところがあると思う」「自分は～～から認められていると思う」の肯定的な回答の割合はどれも大きく、自己有用感が高い傾向にある。一方で「自分のことが好きである」の肯定的な回答の割合は低く、自己肯定感を高めていくことが課題である。

(エ)平日の就寝時刻は全国の回答よりも遅い傾向にあり、11時を過ぎる生徒は60%を超えている。さらに0時以降は1学年で20%以上、2学年で30%以上となり、睡眠不足の生徒が多数いると考えられる。一方で、学校以外の学習時間が1時間未満の生徒は半数以上。生活リズム改善が課題である。

II 今年度の学力向上に係る重点取組

① 学校全体での取組

授業づくり	学習集団づくり	学習習慣・環境づくり
<ul style="list-style-type: none"> <li>「探究型」の学習課題を設定し、学習意欲の向上を目指す。</li> <li>自身の学びの過程や変容を自覚できるように、振り返りを充実させる。</li> <li>研修部が中心となり、教科部会や教科間で情報や成果を共有し、授業改善につなげる。</li> <li>「指定された条件で書くこと」の改善を目指し、各教科の授業で書く場面を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級経営や生徒指導で、安全・安心な居場所づくりや共感的な人間関係を育成し、協働的な学びの基盤をつくる。</li> <li>生徒ひとりひとりが安心・安全に過ごせる学校となるよう、情報を共有し共通理解の上で学級経営や生徒指導にあたる。</li> <li>校区小学校と学級経営の重点の共通理解を図り、9年間を見通した指導とする。</li> <li>自己決定の場を、意図的、計画的に設定し、自ら考え、選択し、決定する力を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書を充実させ、学力向上と落ち着いた学校生活の基盤をつくる。</li> <li>“ほか勉”のあり方を見直し、テスト前の計画・記録と合わせて家庭学習習慣の確立に向けた指導をする。</li> <li>生徒の主体的な取組となるよう、生徒会活動を促進する。</li> <li>放課後と長期休業の学習サポートで、教科や学級、部活動と連携し、補充学習の必要と思われる生徒の参加を促す。</li> <li>様々な生徒の実態に応じた学習に対応できるよう、旧PC室に個別学習スペースを設置する。</li> </ul>

## ② 各教科での指導の重点

国語科の重点
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 有用感を持てるような課題設定となるよう工夫する。</li><li>・ 単元に応じて条件作文を設定し、書く力を身に付けさせる。</li><li>・ 授業内で辞書を使う頻度を増やす。</li></ul>
数学科の重点
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 各学年で、方程式・連立方程式・2次方程式を重点に定期的な学び直しの機会を設定して定着を図る。</li><li>・ 節ごとの振り返りの記述を重ね、学びを深めたり広げたりつなげたりする。</li><li>・ 生徒の実態にあった問題を設定し、できた・わかったという体験や粘り強く考える経験を持たせる。</li></ul>
社会科の重点
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業終わりに振り返りのプリントに取り組み、学習内容の再確認を行う場を設定する。</li><li>・ 単元の前半を基礎・基本の習得に当て、後半は基礎・基本を活用した話し合い活動を行い、思考力を養う。</li><li>・ 学習内容の定着のために、ワークを用いた学習を推進するために、定期的に確認する。</li></ul>
理科の重点
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 探求的な活動となるよう課題設定を工夫し、単元末の振り返りにつなげる。</li><li>・ ワークシートを活用し、定型文をもとにししながら文章記述ができるようにする。</li><li>・ 班編制を工夫して、話し合いでは自分の考えを伝えたり確認したりして、学習意欲の向上を目指す。</li></ul>
英語科の重点
<ul style="list-style-type: none"><li>・ ペアやグループ活動を通して、相手の情報を聞き取り、自分の思いや考えを伝える。</li><li>・ さらに、その思いや考えを文字にして表すようにする。</li><li>・ 単語や本文を複数回声に出して読む時間を取る。</li></ul>
音楽科の重点
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 毎授業で振り返りを記述させる。気付きや感受したことを言葉で表すための例示プリントを継続使用し、表現力を高める。</li><li>・ タブレットを活用し、グループや全体での交流を効果的に行う。</li><li>・ 実技試験において、タブレットで録画したものを自分で確認し、改善点を考える実践を継続する。</li></ul>
体育科の重点
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 学習カードへの記入内容を充実させる。</li><li>・ 自分の課題克服に向けた振り返りと課題克服に向けたスモールステップの設定、周囲との関係性などについて自分の言葉で表現できる力を育てる。</li></ul>
美術科の重点
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 互いの作品のよさに気づかせ、認め合う場を設定する。また、それを表現できるように、コーディネートする。</li><li>・ 「授業に臨む姿」に基づき、生徒自身の学習規律に対する意識を高められるよう指導する。</li></ul>
技術・家庭科の重点
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 実習やグループ活動では、協力し合ったり教えあったりできるような場面や活動を設定する。</li><li>・ 領域に応じて自分の生活を見つめ直して課題を見つけ、その課題を解決していくような授業づくりを行う。</li><li>・ 主体的に学習課題に取り組むよう働きかけ、落ち着いた環境を作って授業に入っていく状態をつくる。</li></ul>